

Let's Know Hiroshima Castle.

# しろうや! 広島城



No. 15

## —50周年を迎えて—

広島市街の歴史は、太田川河口のデルタに城と町が作られて以来400年以上にわたって築き上げられてきました。広島城の築城が、都市としての広島の発展の出発点であり、その後長い間広島城が、広島の歴史・文化の中心でした。

それが、あの原子爆弾によって国宝だった広島城天守閣は倒壊してしまいました。その後、復興のシンボルとして天守閣が再建されたのが、昭和33年(1958)でした。

それから今年平成20年(2008)は、広島城天守閣が再建され、郷土館として開館してちょうど50周年になります。その間の入館者は、825万人を超えています。

また、平成元年(1989)にリニューアルオープンしてから19年目の昨年11月に入館者300万人を達成しました。さらに、19年度は入館者が10年振りに15万人を超えそうです。これもひとえに皆様方のお陰と感謝しております。



再建されて50年目を迎えた広島城天守閣

50周年を記念して、平成20年度にはいろいろなイベントを開催します。このイベントを通して広島城と城下町の歴史や文化を再認識し、次世代に継承していきます。新たな魅力ある広島の文化を創造していく、きっかけになることを願って私ども職員一同、広島城が皆様のシンボルと思われるように、日々精進を重ね頑張っていきます。この50周年を機会にみなさん、ぜひ広島城へご来館ください。心よりお待ちしております。

広島城館長 谷 秀明

ひろしま歴史の小耳 15

(「広島城の50年シリーズ⑦」)

## これからの広島城

### —博物館としての新たな展開—

(1) 広島城、博物館となる

昨年6月8日、広島城は広島県教育委員会の博物館登録原簿に登録され、正式な博物館になりました。それ以前の広島城は、法律上の扱いは「博物館類似施設」というものでした。これは、博物館ではないが博物館と同じような事業を行う施設という意味です。

広島城天守閣内に常設の展示施設が開館したのは、以前この欄でも紹介したように、広島復興大博覧会後の昭和33年(1958)6月1日のことです。このときの施設の名称は「広島城郷土館」で、館内には歴史系に限らず郷土広島ゆかりの物を集めて展示していました。当初から博物館的な性格は持っていましたが、広島市役所内での位置づけは産業振興や観光を担う産業局(現在の経済局)の一部局という扱いでした。つまり、博物館(文化施設)ではなく、観光施設という位置づけだったの

です。また、その頃の広島城郷土館には博物館の業務を専門に行う学芸員は配置されておらず、一般の事務職員が外部の専門家の協力を得て展示会などの催しを行っていました。

広島城にはじめて学芸員が配置されたのは、昭和63年（1988）のことです。この年、翌年に迫った展示更新の準備を進めるため、2名の学芸員が置かれました。更新によって、館内の展示は自然科学と人文系が交じったものから、武家文化を中心に江戸時代までの広島の歴史を紹介するものに改められ、施設の名前も「広島城郷土館」から「広島城」となりました。同時に、展示だけでなく、広島の歴史に関する調査研究や展示図録の発行、講演会などの普及事業も行うようになり、博物館としての機能が次第に充実して行きました。

こうした実績を積み重ねた結果、広島市役所における広島城の位置づけは観光施設から文化施設へと変化し、主管課も平成18年（2006）4月に広島市経済局観光コンベンション推進部（現在の都市活性化局観光交流部）から、教育委員会生涯学習部の後身で博物館を管理している市民局文化スポーツ部文化財担当へ移りました。これを契機に、広島城の博物館登録が行われたのです。



展示ガイドをする学芸員

## （2）広島城学

博物館となった現在の広島城には6人の学

芸員（うち1人は主任を兼任）がいて、収蔵資料や常設展の管理、企画展の開催準備、展示図録の作成、教育普及事業、広報など、さまざまな事業を行っています。こうした事業を行うにあたって、広島城では、広島城を通して広島の歴史について学ぼうという「広島城学」を提唱しています。広島城の築城が都市 広島の原点であり、その後も長い間、広島城が広島の歴史の中心にあったからです。

広島城では、展示会や図録、講演会などを通して「広島城学」をひろめるとともに、広島城や広島の歴史を学ぼうとする人たちを応援しています。また、地元根付いた博物館として、他の博物館や学校、公民館など、さまざまな施設と協同で事業を行ったり、職員が出向いて講演会やフィールドワークを行ったりもしています。



広島城跡で行われるフィールドワーク

## （3）50周年シンボルマーク

こうして、昨年、正式に博物館となった広島城は、今年、天守閣再建50周年（3月26日）と博物館開館50周年（6月1日）を迎えます。ふたつの50周年を迎えるにあたって、広島城は昨年、50周年のシンボルマークを制作しました。シンボルマークは広島市立基町高等学校の創造表現コースの生徒さんが作成した作品60点のなかから選ばれたもので、デザインしたのは同校の3年生（制作当時は2年生）の



広島城  
HIROSHIMA  
CASTLE  
50

平成 19 年 6 月に決まった  
広島城のシンボルマーク

すみよし えりか  
住吉恵利佳さんです。住吉さんの作品は、広島城の別名の「鯉城」にちなんで、跳ねる鯉の中に天守閣を描きこんだものです。

再建 50 周年、開館 50 周年を迎え、広島城はこれからもますます市民に親しまれる博物館を目指してさまざまな事業を行ってまいりますので、どうぞよろしくお祈いします。

(村上)

## おしえて！ 広島城博士 10

Q. 広島城はどうして鯉城と呼ばれているの？

A. よく聞かれる質問じゃ。鯉城は「りじょう」と読むんじゃが、広島市以外の人にはよく「こいじょう」と間違っ呼ぶ人がおる。じゃが、この「こい」は、鯉城の由来の一つとして知られているんじゃよ。広島市内の人なら、西区に己斐こいという地名があるのは知っておるかの。この「己斐」が鯉城の由来となったというふうに、明治時代後半から大正時代の本に書かれておるんじゃ。例えば、広島城は己斐にある城だから「己斐の城」→「鯉の城」→「鯉城」となったことや、同様に己斐浦にある城だから鯉城と呼ばれるようになったことなどが書かれており、今でも由来を語る上ではよく紹介されておるんじゃ。しかし、色々調べていくと、少なくとも江戸時代の終わりごろには広島城を鯉城と呼んでいたことがわかっている（広島城のことを鯉城と表現した最も古い資料は、現在のところ頼山陽の息子隼庵いづあんが書いたもの）。しかし、江戸時代には「鯉城」の名前の由来について書かれた資料はなく、さきほど紹介した明治時代後半の書物が最も古い書物になるんじゃ。広島城が鯉城と呼ばれ始めてから少なくとも50年も経ってから作られた書物に書かれている鯉城の由来は、わしゃこの時に新しく作られたものじゃないかと思うのう。そもそも己斐は広島城から少し離れておるしう・・・

さあ、何でも聞いて  
ごじゃれ！  
今回の質問はこれ！



なら、なぜ鯉城なんじゃろうか。他の城では、亀や鶴などめでたい動物を使っているとこがあるが、実は鯉もめでたい魚なんじゃ。鯉は「鯉の滝登り」で知られているように出世を意味する魚じゃからめでたいし、また黒っぽい城でもあるから鯉城と名づけたんじゃないか、と、わしゃそう思うがのう。ちなみに広島東洋カーブの名の由来は、鯉城なんじゃ。カーブを名づけた谷川昇さんは、「鯉が縁起のいい魚であること」「広島城は鯉城と呼ばれているから」などの理由からカーブという名称に決めたことがはっきりしておる。まあ、めでたい鯉じゃけん、城や野球チームの名称につけられている、ってことじゃ。カーブも滝を登って、優勝してくれんかいのおー

(玉置)

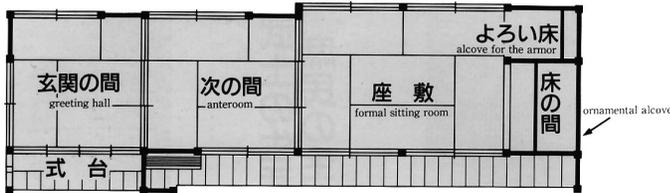


「登竜門図」 岸岱 筆  
個人蔵

## 展示室でみつけたよ⑥

# 武家屋敷

広島城の二階には、江戸時代の武士の屋敷を復元しています。天守閣の中に復元しているので、スペースの都合で屋敷の一部のみの復元ですが、武家屋敷の特徴がよくわかるようになっています。



見取り図をみてください。式台<sup>しきだい</sup>というスペースが玄関に設けられていますね。この式台は、地面より一段高く、部屋よりも一段低くなった板敷きのスペースで、客を送り迎えるためのものです。この式台は同じ武士の中でも、身分の高い武士にしか許されませんでした。



式台が設けられた玄関

玄関に入ると、次の間が座敷に対する控えの間として設けられています。

座敷は、客を迎えるこの家の顔ともいえるべき部屋です。座敷の特徴として、床の間が設

けられていることがあげられます。床の間は、屋敷によっても違いますが、床柱などの部材で幅約2m、奥行き約90cm前後のスペースを作り、板もしくは畳敷きの床を設け、掛け軸や花を活ける空間です。もともとは室町時代に武家屋敷や寺院などで発生しました。さらに茶の湯の流行とともに茶室で発達し、江戸時代には貴族や武士の屋敷の書院や座敷に用いられ、民家にも広がっていきました。



床の間のある座敷

以上が復元されている部屋で、この家の公的な空間ですが、本来の武家屋敷には、この空間の奥に台所や居間などのプライベートな空間が設けられていました。将軍や大名の御殿とも共通することですが、基本的に武家屋敷は公的な空間・プライベートな空間が分かれていました。ただし、身分の低いさむらいの屋敷は部屋数も少なく、公私の空間を分けられない場合もありました。

(田村)



しろや!

広島城

編集・発行  
財団法人広島市文化財団  
広島城  
〒730-0011  
広島市中区基町 21-1  
電話：082-221-7512  
FAX：082-221-7519

平成20年2月27日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00

(12月～2月までの平日は9：00～17：00)

入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円(280円)

小人180円(100円)

( )内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ：<http://www.mogurin.or.jp/rijo.html>